ハンドマイク街頭演説原稿例　マイナンバーカード強制反対

二〇二二年十月二十日　日本共産党埼玉県委員会・作成

　ご近所のみなさん、こんにちは。日本共産党です。この場所をお借りして、日本共産党の政策を訴えさせていただきます。しばらくの間ご協力をお願いいたします。

　みなさん、岸田自公政権はこのほど、現行の健康保険証を二〇二四年秋に廃止し、マイナンバーカードに一体化させる方針を表明しました。マイナンバー制度に反対する人も多く、マイナンバーカードを作るかどうかは個々人の任意だと法律ではっきり規定されています。生活必需品とも言える健康保険証をマイナンバーカードに統合するのは、マイナンバーカ―ド作成を事実上強制するものです。日本共産党は、このようなやり方に反対し、一体化の方針を撤回するよう、強く求めます。

　マイナンバーカードの交付率は今年九月末時点で全人口の半分以下です。保険証を一体化させた「マイナ保険証」が昨年十月から始まっていますが、利用者はいまだに全人口の約二割しかありません。デジタル庁のアンケート調査結果では、マイナ保険証を申し込まない主な理由は「メリット・必要性を感じない」が約三割、「手続きが面倒」が約二割、「情報流出が怖い」が約十五％などでした。健康保険証とマイナンバーカードの一体化は、多くの国民が求めているものではないということが、ここからもわかります。

　みなさん、医療現場からも保険証廃止に異論が出ています。マイナ保険証の表面に被保険者の情報は書かれていないため、医療機関は専用の電子システムを導入し、端末機器で被保険者の資格をいちいち確認しなければなりません。医療機関にとってはシステム導入の費用や事務の手間が増えます。患者にとっても医療機関にとっても、負担を押し付けるものとなります。

　また、マイナンバーカードを持たない人の医療については「これから対策を考える」という無責任な姿勢です。認知症など手続きが困難な人たちへの対応もはっきりしません。加えて、マイナ保険証を利用できる医療機関は現時点で３割程度しかないうえに、導入した医療機関からはシステムなどのトラブルが報告されています。保険証廃止を強行すれば混乱を引き起こすことは確実です。マイナンバーカードを普及させたいがために、国民生活に混乱と負担に目を向けない岸田政権のやり方はあまりに乱暴であり、許せません。

　マイナ保険証から個人情報は流出するのではないか、という不安も多くの国民が抱いています。だからこそ、マイナンバー制度そのものに反対する人や、マイナンバーカードを作らない人が多くいるのではないでしょうか。日本共産党は、多くの国民が望んでいない健康保険証廃止・マイナンバーカード一体化を直ちに撤回することを求めます。

　この機会に日本共産党の発行する「しんぶん赤旗」をお読みいただきますようお願いいたしまして、この場所をお借りしての日本共産党の政策の訴えを終わります。ご協力ありがとうございました。（了）